

国際サンゴ礁年2018クロージングイベント ～サンゴの海つなぐ未来へ～ 石垣島で開催！



国際サンゴ礁年2018もいよいよ大詰めの2018年12月16日（日）、サンゴ礁の恵みや保全、さらには地球温暖化対策について広く一般の方に周知しようと、日本最大級のサンゴ礁を誇る八重山諸島の中心、石垣島の石垣市立新川小学校体育館で国際サンゴ礁年2018クロージングイベントが開催された。主催は環境省、石垣市、共催：沖縄県、協力：WWF-J。当日は石垣市内の小学生を中心に約150名の方が参加し、トークショーや調査・研究の展示を熱心に見聞きしていた。

ステージプログラム

地元の5つの小学校からもサンゴ礁保全の取り組み報告

新川小学校体育館のステージでは、午前9時半からさまざまなおイベントが披露された。

まず中山義隆・石垣市長から主催者を代表してあいさつがあり、2016年の水温上昇によるサンゴ礁の大規模な白化、その後の再生活動、調査研究などから「一人ひとりができるることはたくさんある。一人の小さな行動が結びついてサンゴ礁の白化や海洋汚染を防げることもたくさんある」と、国際サンゴ礁年2018の意義や今後の自然保護活動の重要性を語った。

続いて国際サンゴ礁年2018の取り組みの振り返りを、やえやまサンゴカフェでお馴染みの“たまのつゆ博士”と“あがれめがね君”が行った。

次はこのイベントのメインである石垣島の各学校の取り組み報告。市内5つの小学校（新川小、川平小、野底小、平久保小、八島小）の生徒が登壇。2018年度に各学校で取り組んだサンゴ礁保全学習の内容や感想等を上手にまとめて発表した。サンゴ礁とサンゴの違いをはじめ、大人顔負けのサンゴ礁の知識に、琉球大学名誉教授の土屋誠先生もびっくり。「感動した」を何度も連発していた。

続くトークショーでは土屋誠先生が「サンゴ礁の恵みと

◆開催概要

日時：2018年12月16日（日） 9:00～13:00
場所：石垣市立新川小学校 体育館
司会：井田 寛子（気象キャスター・気象予報士）
講演：土屋 誠（琉球大学名誉教授）



開会のあいさつに駆け付けた中山義隆 石垣市長



川平小学校5年生の4名はサンゴ礁の生き物をマッピングするなど展示物とともに報告。「海ってすごい。魚とサンゴが助け合っていることを知りました」、「サンゴの大切さを多くの人に知ってほしい」と語った



石垣島最北端の平久保小学校からは5年生と6年生の2名が、オニヒトデの食害や海水温上昇により白化してしまったサンゴを観察。新しいサンゴが生まれ始め、サンゴ礁が復活していることを伝えてくれた



国際サンゴ礁年2018の取り組みを紹介してくれた“たまのつゆ博士”（左）と“あがれめがね君”（右）
(国際サンゴ礁年2018@八重山実行委員会)



新川小学校5年生は10名で活動を報告。「サンゴに興味がなかったけれど、これを機にサンゴのしくみを知り、海をきれいにしたいと思った」と語る生徒も



野底小学校からは5年生、6年生が6名登場。「ウミショウウブのふしぎ発見」を発表。一年に一度開花するウミショウウブだが、年ごとに新月に咲いたり、満月に咲いたりするのはなぜか？を調査。宇宙の動きを知るウミショウウブの能力のすごさを紹介してくれた



八島小学校からは5年生の7名が登場。名蔵アンパルのマンガロープを観察したり、目の前の真栄里海岸でのビーチクリーンなどの活動を報告。「私たちの海を私たちで守ろう」と感じた。これからも頑張っていきたい」とまとめた



琉球大学名誉教授、土屋誠先生がサンゴ礁を守ることの大切さや地球温暖化とサンゴの白化との関係などについて紹介



気象予報士にして気象キャスターの井田寛子さんは「2100年未来の天気予報」と題し、このまま気温が上昇していくと82年後にはどうなるかをデータベースで紹介



左上／国際サンゴ礁年2018のアンバサダー、さかなクンはメッセージビデオで登場
ステージプログラムのラストは、環境省自然環境局自然環境計画課の植田明浩課長（左）が小学生たちとともにクローズ宣言。「1、2、サンゴ！」と腕を突き上げて終了宣言となった

展示ブース

学校による取り組み報告

石垣島の中高と東京からも参加

各学校で行われているサンゴ礁について考える授業や活動について、石垣市立川平中学校、沖縄県立八重山商工高等学校（2つは石垣島の学校）、そして東京の私立大学玉川学園がポスター等で活動報告した。

特に日本最大のサンゴ礁、石西礁湖が目の前に広がり、「ダイブ＆トラベル大賞」（月刊マリンダイビング主催）では18年間連続日本No.1人気のダイブエリア、石垣島だけに、自分たちが何かをしなくてはという意識も高く「ゴミ捨てるな」「Help Coral」「自分達の手でサンゴを守る」、海へ行ったら自分が出したゴミ以外に落ちているゴミを+1拾おうという「+1運動」を提案したりと、より具体的な内容がそこには書かれていた。

また、ステージでも取り組み報告をした小学校のうち4つの小学校がポスター等でサンゴ礁についてわかったことを発表。野底小学校の「ウミショウウの記録」は新発見の報告もあり、生物多様性という観点からみても非常に興味深いものとなっていた。



目前に日本一といってもいいほど有名なマンタスポットがある石垣市立川平中学校では「サンゴ新聞」「CORAL新聞」という形でサンゴにまつわる今の課題（赤土問題、海水温の上昇、プラスチック問題、ゴミ問題）を掲載したり、スノーケリングで体験した「イノーにいる生物」の観察記録をかわいいイラスト入りで紹介



日本最大のサンゴ礁、石西礁湖がすぐ目の前に広がる沖縄県立八重山商工高等学校では、サンゴ礁の生態系（サンゴ礁が安全に生息する条件、サンゴ礁の内側に住んでいる生物）、サンゴ礁環境問題についてレポート



川平小のサンゴ礁マッピング



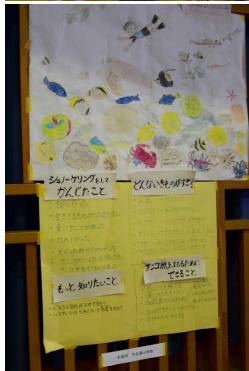
野底小はウミショウウの調査結果をポスターにした



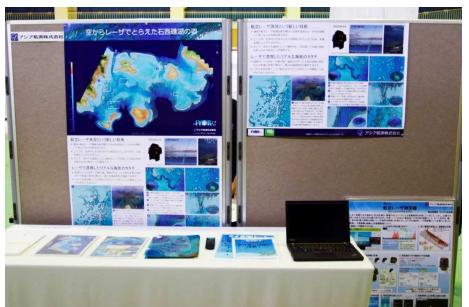
私立大学玉川学園（東京）では、サンゴ研究の一環で石垣島サンゴ研修を実施。スノーケリング、マンゴロープカヤッキング、リバートレッキング、サンゴ礁体験、鍾乳洞探検、野底マーベー登山などを通して、サンゴやサンゴを取り巻く環境を調査。その報告を写真とともに掲載



上／八島小はサンゴ礁について学んだことをポスター展示



平久保小はスノーケリング学習で学んだことをかわいい絵とともに紹介



国際サンゴ礁年2018オフィシャルサポーター企業による取り組み報告

国際サンゴ礁年2018オフィシャルサポーター26企業・団体のうち、今回のイベントには、主に東京から9社が参加し、ブースでその取り組みを発表したり、商品を販売したりした。

アジア航測株式会社



株式会社オーチャナ



ジーエルイー合同会社



株式会社水中造形センター 月刊マリンダイビング



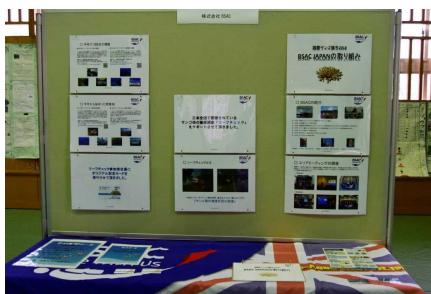
株式会社タバタ



株式会社ナウイエンタープライズ



株式会社パディ・アジア・パシフィック・ジャパン



株式会社BSAC



Head Japan株式会社SSI事業部

行政・団体による取り組み報告

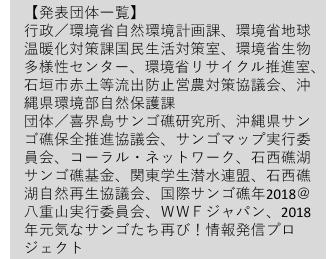
環境省をはじめ、サンゴ礁が広がる沖縄県、石垣市、鹿児島県などからサンゴ礁保全のための活動を報告。沖縄だけでなく隣県の鹿児島県からはその希少かつ貴重なサンゴ礁を保護、研究するために平成26年に設立されたばかりの喜界島サンゴ礁科学研究所が参加。また、サンゴ礁を保全・自然環境を守る活動をしている9つの団体もポスター等で取り組みを発表した。サンゴ礁を取り巻く多様な問題、研究、調査などが一堂に会し、見ごたえのある内容になっていた（写真はその一部）。



喜界島サンゴ礁科学研究所



コーラル・ネットワーク



関東学生潜水連盟



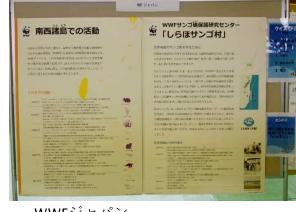
石西礁湖自然再生協議会



国際サンゴ礁年2018@八重山実行委員会



石西礁湖サンゴ礁基金



WWFジャパン



2018年元気なサンゴたち再び！
情報発信プロジェクト

クイズラリー や ゆるキャラ撮影会も

来場者に楽しんでもらおうと、各ブースを回ってクイズに答えるクイズラリー、石垣市のばいーぐるなどのゆるキャラとの撮影会なども開催。クイズラリーでは賞品がもらえるということで、小学生たちが嬉々として参加。サンゴにまつわるクイズに挑戦した。



クイズラリー参加者には、出展しているブースなどからの素敵なプレゼントが贈呈された

ゆるキャラ撮影会に参加してくれたのはこの3体！右からつなげよう支えよう森里川海アンバサダーのアヒル隊長、石垣市のばいーぐる、WWFのコパンダ。3体と一緒に写真が撮れるなんて贅沢なチャンスはないかなない！と、会場では引っ越しにぎやかだった

（写真・文／マリンダイビング編集長 後藤ゆかり）